

これまでの会議等（保小中学校運営協議会・保護者懇談会・保護者アンケート）の概要

※赤字が第2回保護者懇談会（10/27）でのご意見

■「北川学や子育て支援策、保小中連携の取組等について」

【北川学】

協議会：地域の資源をテーマに学習していくことは、郷土を愛する心の育成につながっていくと思う。地域の方と関わりながら深い学びのあるものにしてほしい。

協議会：どの子ども村への深い気持ちを持って真剣に取り組んでいる。課題意識を持って積極的に協働していると思う。

協議会：各学年で地域の人・もの・ことについて課題を発見し課題を解決する探究的な学びができている。また、子ども達の学ぶ意欲、自分の考えを持つ力、書く力、コミュニケーション力なども身に付いてきている。

協議会：小学校3年生のかかし作りの活動は、子どもの個性なども出ていて良かった。

協議会：北川村が好きな子どもが多いことはすごいことだと思う。この気持ちを大事にして将来を託したいと思った。

協議会：地域の方々の協力のおかげで意義ある活動が進められている。

協議会：学校と地域をつなぐ地域コーディネーターが必要である。

保護者：北川学は地域を知るという意味で大変よい取組だと思う。北川村は面積が広く、ゆかりがなければ村内の他の地区を知ることも訪れることもなく過ぎていくが、今回子ども達のクラスは島地区を訪れることにより、地区の現状や同じ村内でありながら野友地区と違う村の姿を子どもなりに理解できていた。気づきや課題を子どもの時に感じたことにより、将来につながっていく機会となり得ると思う。

保護者：北川学で実際の現場を訪れたり人に会うことで、より子ども達の心が動く気がします。子ども達だけではなく、親や地域の方も巻き込んでもできることはないかとも思います。

【ICT関係】

協議会：臨時休校の時も授業が可能になるのでよいと思う。その他の活用もできると思う。

協議会：コロナウィルス感染が広がる中、今の世の中では必要。活用にあたっては、教員の研修やICTの学習を支援する人が必要。

協議会：また、総合的な学習の時間などにおいて、子ども達が地域で活動できる場を設定し、子どもの活用力を高めていければよいと思う。ICTの正しい活用方法についての教育も必要。

協議会：オンライン英会話は、いつでも英語を使う人と話せるので、大変いい経験になると思う。

協議会：説明を聞いて進捗状況の理解はできた。

協議会：配布されるパソコンは家庭でも活用できる？

保護者：子どもが一人一台パソコンを持ったら、毎日持ち帰るのか？結構大変だと思う。

協議会：ICTを活用した授業は2学期中にできますか？

保護者：Wi-Fiがつながっていない家庭にモバイルルーターを貸与すると、家庭で使用するときには制限はかけることができるのか？

保護者：オンラインで公開授業を見れるようにしてほしい。

保護者：パソコン等を使った取組は積極的に行ってもらいたい。少人数だからこそ子どもにいろいろな物を使って教育を受けてもらいたい。

【保小中連携・一体化】

協議会：小中交流の授業が行われ、特に、小学6年生の子どもが中学校に来たり中学校教員の授業を受け

たりしながら、ぐっと小中間の距離が近くなって親しんでいる。

協議会：保小中連携・交流は、児童生徒理解や学習理解のうえでも必要。

協議会：中1ギャップ等の解消や、小中お互いの学習内容や子ども理解につなげることができる。

協議会：保小中一体化の取組の一環として、複式学級が解消される良い面は表には感じますが、現場の先生の状況はどうでしょうか？

協議会：いろいろな計画がコロナの影響で中止・延期となり、子ども達へのしわよせも見える中、新しい生活様式の中で、2学期以降できることから始めていきたい。

保護者：コロナの関係で今はお休みしているかもしれませんが、合同の体育（3・4年生）など子どもはすごく喜んでいました。

保護者：小中で学Pのコロナ対応や修学旅行に対する取り組み方が違っており、連携して同じ考え方でしたらよいと思う。

【地域ぐるみ教育】

協議会：地域ボランティアについて、学校や保育の中での困り感もわかりボランティア活動も行いやすいと思う。

保護者：愛校作業に地域の方が来てくれて良かった。きれいになった。

保護者：ボランティア登録カードを回覧で定期的に回してみてもどうか？具体的な日程も添えたらわかりやすいと思う。

保護者：ボランティアの件について、気持ちはありますが、子連れだと迷惑ではないかと躊躇しています。子どもがいてもできるボランティアも考えて頂ければ協力しやすいです。

【子育て支援】

協議会：子育て教育ビジョンの取組ができて、今まで個人で声をあげてきたことがすんなり取り上げてもらえた。

協議会：夏休みの放課後子ども教室の受け入れが朝の7時30分からできるようになったことで、仕事の面でスムーズに勤務できるようになった。

協議会：どの市町村も実施している子育て支援。村の手厚い支援内容は、行政だけが行っても難しく、地域住民の理解がなくては成り立たないもの。その意味では、今村のやろうとしていることは、他の自治体に出しても誇れるものだと思う。

協議会：高等学校等生徒通学費助成金を全員に！

保護者：高校生への通学費助成は助かっている。通学のみで寮生活の生徒は対象となっておらず、郡外へも広げて進学への支援をしてはどうか？

保護者：修学旅行の半額補助について、村の学校に通っている子どもでも村内在住でなければ補助は出ないのでしょうか？同じように対応してあげることにはできないのでしょうか？

【公認心理師】

協議会：公認心理師について、子どもの悩み、相談、不安に思った時など、村に常時聞いてもらえる方がいることはありがたい。

保護者：公認心理師の配置は子ども達にとって大きなプラスになっていると思います。どのような関わりがあるのか具体的に知りたいです。

保護者：公認心理師がいるのは知っていましたが、どこで活動しているのか知らないままでした。ゆずの花で自分の子どもと一緒に遊んでもらったことで改めて認識しました。いろんな方に知ってもらうためにも、イベントや行事等に参加してもらえればと思いました。

保護者：公認心理師と親との距離が縮まるような機会があればもっと子どものことについて相談しやすくなる気がします。

【育てほしい子どもの姿】

協議会：15歳までに育てほしい子どもの姿について、大人像も考えることも必要ではないか？

協議会：子どもの現状に対して、議論を深めていければ。

【部活動】

協議会：中学校の部活動を広域化してもらいたい。切磋琢磨できる環境を！

保護者：中学校の部活動の協議状況は？部活動は学校を決める要因に大きく関わっています。

保護者：部活動について議論を早急に進めてほしい。

【子育て教育ビジョン全般】

協議会：年少人口減少については、村行政の取組と一緒に検討しなければならないと考えます。

協議会：保護者にはまだあまり知らない、わからない方が多いと思います。

保護者：取組はこれからも続けてほしいです。中身も大事ですが、そもそもの子どもや子育て世代を誘致し、担当課がちがうことを理由にせず子どもの数を増やしていく工夫や取組にも力を入れてほしいです。子どもがいなくなれば他のどんな取組も意味が無くなってしまうので。

保護者：広報誌で大きく誌面をさいてビジョンを紹介して下さい。多くの村民は子どもが少なくなったとか北川学って何だろう？とか、おぼろげにしか捉えられないと思います。村全体に課題や取組を共有し関わる人、関心を持つ人を増やさないといけないと思います。

保護者：当事者だけではなく、地域の方がこの取組についてどう思い感じ、賛同してくれているのか少し気になります。また、教育を充実させるために、親も巻き込んでほしいし、一部の人だけではなく、より多くの大人が関われる体制を考えたいです。

保護者：複式学級の解消や少子化を食い止める一番早い手段はやはり移住促進なのでしょうが、まず家がない現状を早急に解決していくべきだと思います。実際、それを理由に他市町村を選んだ人もいました。コロナで色々と制限はありますが、逆に田舎の魅力を感じる人もいるはずですよ。

保護者：あまりにも子どもが少ない。中芸地区では若い世代が住宅に困っている。北川村に若い世代が住めるようにアパート等を増やし、配偶者ができた際には世帯向けに入居できるように準備をしてもらいたい。（奈半利や田野は高額の入居費が多く若者が困っており、そのような人たちを村に連れてくる。）

保護者：取組は、今から5年10年後を見据えた短期・中長期的な大義名分が必要だと感じた。ここ2～3年でやらなければならないことと、5～10年後を見据えた移住促進につながるか、村の子ども達に対する充実した教育環境がのちの村の人口減少をくい止める取組であってほしい。

保護者：みんなで食育が難しければ栄養学から取り組んでみるとかはどうでしょう。

保護者：村民誰一人残さないくらいビジョンを浸透させ、様々な意見や考え方をぶつけてもらいたい。協議決定のようにいつの間にか知らないうちに決まってしまうのはダメ。

■「子育て・文教エリア（図書館や公園、保小中一体的な施設）整備について」

【多様な施設・機能】

協議会：子どもたちが遊べる公園がない。子どもが減っていく状況から考えると、以前よりも必要性を感じなくなったが、これから保小中一体化も踏まえた議論の中では、絶対に必要だと考える。他の自治体との差も感じる。（図書館や体育館などの整備）

協議会：公園は必要。村内に行くところがない。

協議会：多目的な図書館で、休日もオープンしていればありがたい。

協議会：田野のような図書館があればよいと思いますが、利用者がたくさんいるのかはわかりません。

協議会：地域に開放された図書館のような文化施設があればありがたい。

協議会：図書館はやっぱりいると思う。土日祝日に休みなのはどうかと思う。平日を休館にすればよいと思う。

協議会：スポーツやものづくり、学習など、体験できる場があればよい。

協議会：学校の中に、地域の方が集まりやすい場所があればいいと思う。

協議会：災害に強い施設が必要。

協議会：防災を含めて、コミュニティセンター機能があるとよい。

協議会：学校ゾーンと福祉ゾーンの一体化。

協議会：病気の時や夜間に子どもを預かってくれる施設があれば。

保護者：地域に開放された図書館がほしい。その場で子ども達が地域の方と関わりを持てたりお互いに興味関心が持てるようになればよい。

保護者：ゆずの花に図書・学習スペースを設けては？図書館を作っても需要がないのでは？

保護者：図書館や公園など種類やスタイルに関わらず、誰でも気軽に集える場所がほしい。

保護者：気軽にいける公園があればいいかなと思う。

保護者：公園の整備を希望します。（住宅地に隣接したもの、加茂の公園の利用、奈半利川本流・支流に親水公園→楽しく川遊びができる場所が案外少ない。）モネの庭は観光施設であり、ここでいう公園とは異なると思う。

保護者：モネの花の庭に公園を作ってショップと隣接した遊べる空間を作ってほしい。

保護者：村民会館の図書室について、割と新しいいい本があることを、ゆずの花の図書スペースで見て初めて知りました。図書室は普段から暗くて行きにくい？ような雰囲気があるので、もう少し開放的なスペースになれば大人も行きやすいと思います。

公園についてですが、学校の運動場で休日に遊んでいる子どもがいると聞いたことがあります。村民会館前のブランコなど、既存のスペースを有効活用したらいいのかなと思います。モネの庭も無料で利用できるの家族で利用したこともあるが、小さい子どもには滑り台くらいしか遊べるものはなかった。（新しいものを作るのには」費用や時間がかかるので、既存の施設を利用しやすくするという意味で）

保護者：村外からも来なくなるような他にはない村の良さがある公園があると、話題性もあり、出向く人も増え、村のアピールによって移住にまでつながると思います。子育て世代にとって公園の有無はかなり大きな問題ですし、高齢者にとっても憩いの場になると思います。現在あるモネの庭の敷地や学校にあるものとは意味合いが異なります。公園内に図書館があっても面白そうです。

保護者：確かに中途半端な田舎である北川村。安心安全に自然に触れあえるエリアがほしい。

保護者：費用面で負担が大きいのであれば、木を使った遊具等でも良いと思う。手作り感があるような村のオリジナルが出せる公園だと売りにもなる。

保護者：津波が来ないと言っているが、詳しい人の話では野友もつかると聞きました。その点を重要視してほしい。

【保小中一体化施設・機能】

協議会：保小中合同の施設。

協議会：保小中が一つの敷地内に。距離を物理的に近くすることがまず第一。今後新しい校舎を検討する場合には、子どもの命を第一に考え、防災センター的な機能を組み入れることも一考してもらい

たい。

協議会：保小中連携・一貫した施設一体型が必要。そこに地域との協働やICT、防災、図書館などの複合機能があればよいと思う。事例のようなものがあればいいが？

協議会：15年の一貫した教育を目指すのであれば保小中一体化または隣接したのが望ましいと思う。ただ、子どもの減少を考えると、いつ頃、どのような規模で建てるのが望ましいのか？

協議会：保小中一体的な施設整備は希望ですが、子どもの数を考えると？図書館や公園は望みます。

協議会：施設の整備もよいが、耐震など安全の方が大事かな？

保護者：防災機能を兼ねた保小中一体型の建物があったらいい。

保護者：保小中一体施設だけではなく、デイサービスや役場も含めた複合施設にして、全ての機能を集約しては？役場、村民会館、デイサービスセンターは、村営住宅やシェアオフィスとして活用することも検討してはどうか？

保護者：災害時に逃げる場所がほしい。(防災センターのような保小中の子どもが一斉に集まれる避難場所)

保護者：安芸市の奈比賀にある教育支援センターのような不登校の子どもが活動や学習できる場所を作ってほしい。

保護者：お金が必要になると思いますが、体育館に空調設備をつけてほしい。

保護者：何億円もかけて上等な施設を作って子どもが0になったらどうするのですか？中芸地区で統合または共創していくのであれば意味があるのかもしれませんが。お金をかけるのなら外側にかかるのではなく村民のニーズに合った中身にかけてほしいです。

村や国のお金だから使ってもかまわない、使わなければいけないという考えはやめて、意味のあること、しなければならないことに最低限のお金を使っていくようにしてほしいです。

【全般】

保護者：子育てに対する整備・支援の充実は、子育て世代の移住促進を進めるという名分があつての取組だと思う。減少する子ども達のためだけの大義だけでは税金の無駄遣いになると思う。今の子ども達も幸せになる投資がこれからの村の子ども達の人口増加になってこそその投資だと思う。今だけ盛り上がり、4～5年経ったら元に戻らないような取組にしてもらいたいと思います。

【山村留学制度】

協議会：都会よりも田舎を選ぶメリットもあるのだろう。寮での集団生活で学ぶことも多いと思う。(大川村の実例より)

協議会：本村の子ども達にもメリットがあるのではないかな。刺激を受け、別の世界も感じ目を開かされると思う。

協議会：留学生と地元の子どものも、子ども同士なら自然と打ち解けるようになるのではないかな。

協議会：体験活動等で地域の方々と関わる機会が増え、人を知ることができ、コミュニケーション力や自尊感情の高まりも期待できる。

協議会：現在、コロナウィルス感染症の拡大により、都市部から地方へという意識が高まってきている。寮を整備して受け入れるよりも、家族と移住してもらう方がいいのではないかな。

協議会：実際に移住となると住む家や就労の世話も必要になるので、役場の他課との連携を強化することが必要。

協議会：北川村の地理は少し便利で少し不便。何を魅力として何を売りにするのか？

協議会：子どもの様子や学校の状況を知るためにも、大川村へ視察に行ってみたい。

協議会：大川村で小学生よりも中学生の受け入れが多い理由は？

→大川村での受入学年が、小学5年生からとなっていることも理由として考えられる。小学校の全学年で受け入れをしていたら、小学校の留学生も増加する可能性もある。ただ、寮の定員（15名）の関係もあり発達段階も考慮して小学5年からの受け入れとしている。（大川村より）

協議会：指導員はどのような資格が必要？

→必須の免許や資格は必要ないが、留学生の生活指導や安全管理指導の他、場合によっては宿直業務も想定（大川村では常時2名体制）されるので、保育士・教員免許や保健師等の資格を有していたり、これまで子どもの指導や支援に関わる業務に携わっているなど、一定の経験を有している方が望ましい。

協議会：集団生活の中で困ったことなどはないのか？

→大川村は寮生活となっているので、急病やけがなどの緊急対応や保護者への連絡の他、男女がともに生活しているので、部屋の行き来を禁止するなど、異性関係のトラブルに発展しないような体制や指導の在り方に特に留意する必要があるとのこと。

協議会：教員加配はどのような業務に従事しているのか？

→寄宿舎（寮）を設置している学校には教員加配があり、学校で授業などの職務に当たる他、日常的な留学生の指導や寮での宿直業務に従事している。

保護者：山村留学で村外から子どもを受け入れるのにメインの取組が北川学では薄くないか？

保護者：やるなら小学校30人、中学校15人くらい受け入れてほしい。

保護者：地域の方の協力が必要になってくると思うが、実際の声はどんなものか？一部の人の負担にならないか？

保護者：子どもの学習進度をあわせるのが大変ではないでしょうか？

保護者：中学校まで山村留学をしてその後どのような進路を選んだのでしょうか？

保護者：部活動以外で日常の交流として、各市町村で体験活動を行い、他と一緒に過ごす機会も作ってはどうか？

保護者：山村留学前後の子どもの変化が気になります。そもそもなぜ留学を決意したのか、壁にぶつかったことやトラブルはなかったか・・・？

保護者：意見交換に参加する保護者も少ない中で、他県から子どもを受け入れるような余裕が村全体にあるのか？来てもらっても中途半端な対応になるのなら意味が無いと思うし、目の前のやるべきことをやるのが優先だと思う。

保護者：住宅の整備が早く解決すべき課題ではないか？社宅ですら用意がままならないのに、留学生の家を準備するのは難しいのでは？

保護者：リモートワークできる職種・企業の呼び込みに力を入れては。住環境を整え、安心して即移住できるように。空き家の活用も。

保護者：ITだと場所を選ばず仕事ができるので、そういう人たち向けの施設を用意しては。また、自営をサポートできる体制もあればよい。

保護者：家族と移住の場合、親の仕事の問題があると思う。仕事がないと無理ではないでしょうか。

保護者：留学という形だと期間が決まっているので、ビジョンが立てやすい。移住よりも少し気持ち的に動きやすい。